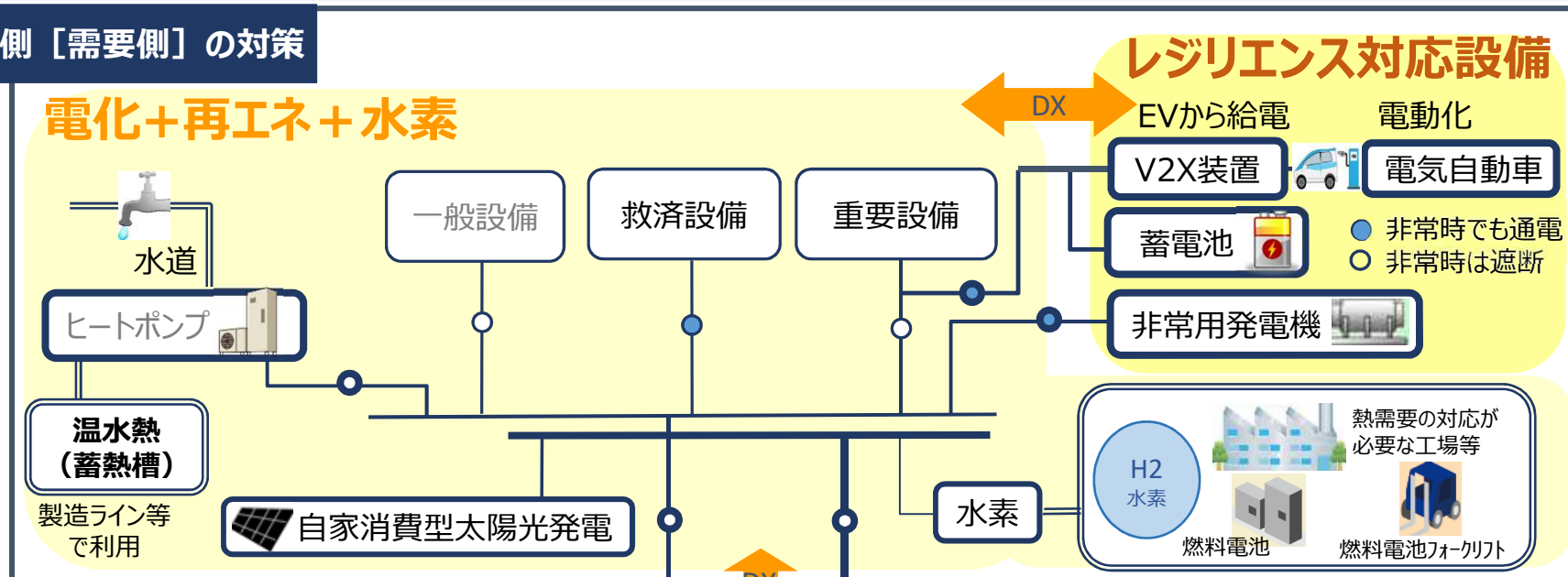


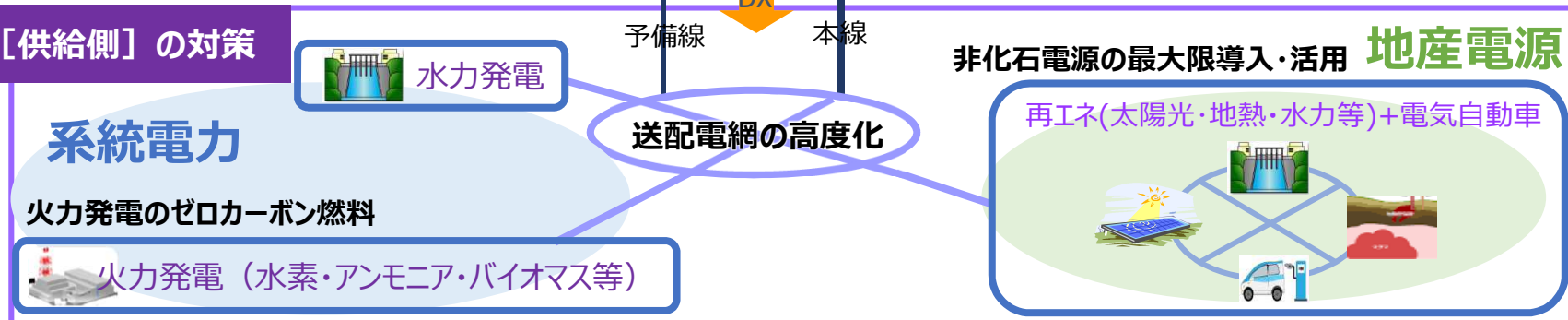
東京電力グループが考える カーボンニュートラルの取り組み

- エネルギーを利用する側は、「再エネ導入」と「高効率機器（電気式ヒートポンプ）」の組み合わせによる既存技術のパッケージ化で、CO₂を直接排出しない仕組みを推進
- エネルギーを作る側は、火力発電のゼロカーボン燃料（水素・アンモニア・バイオマス等）の利用および非化石電源を最大限導入（太陽光・地熱・水力等）し、系統電力と地産電源の組み合わせを推進
- 電化・水素化とDXにより、カーボンニュートラルとレジリエンスの両立を実現

利用する側【需要側】の対策

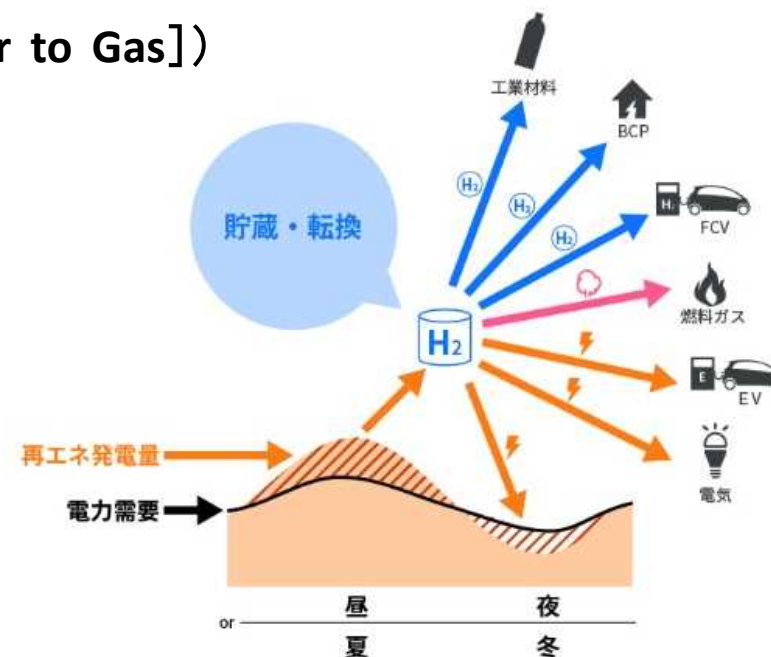
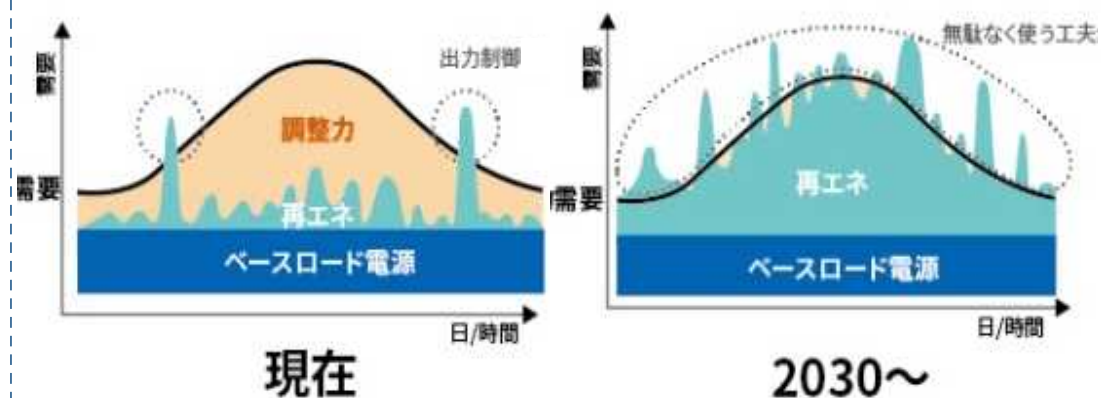


作る側【供給側】の対策



参考：イメージ図（例示）

再エネ余剰エネルギーを水素に換える（P2G [Power to Gas]）



画像出典元：東芝エネルギーシステムズ株式会社 P2G水素サプライチェーン
<https://www.toshiba-energy.com/hydrogen/product/supply-chain.htm>

<いちご栽培の温度管理>

重油ボイラー ⇒ 電気式ヒートポンプ



<いろは坂の移動手段>

車両のみ ⇒ エレベーターなどの併用

